

公益社団法人 ソーシャル・サイエンス・ラボ 定款（抜粋）

（目的）

第3条 この法人は、地域の産業活力、地域の文化振興及び地域住民の健康福祉向上の実証研究、調査及び施策提言を行い、地域産業振興の為の施策並びに地域文化の伝統継承及び健康福祉増進の進歩普及に貢献し、もって地域活力のための具体施策を取り組み、並びに多様化・複雑化する経営課題を解決するための中小企業に対する経営支援、及び地域文化の行催事の支援並びに厚生労働省認定の健康増進施設の活用による地域住民の生涯教育の機会提供など健康福祉の向上に寄与することを目的とする。

（事業）

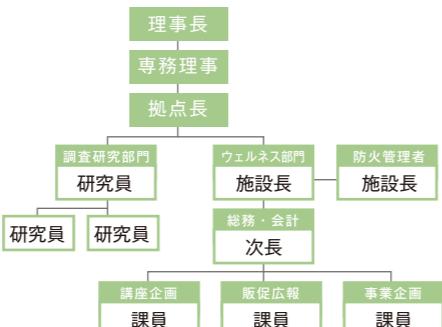
第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 地域経済社会に貢献するための経済・政治・文化及びこれらの諸制度に関する調査研究並びに大学研究機関等と連携した共同の研究活動
 - (2) 伝統的日本文化の行催事等慣習・風俗・歴史の研究、保存及び伝承並びに地域の行催事支援
 - (3) 身体の健康づくり講座及び心の健康づくり講座の企画・運営
 - (4) 前3号の事業にかかる機関誌並びに法人活動のための研究レポート等の刊行
 - (5) 中小企業経営力強化支援法に基づく経営革新等支援業務
 - (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は、奈良県において行うものとする。

組織・運営の概要

組織は2部門によって構成されています。調査研究部門では定款に基づき大学やその他の機関と共に調査・研究活動を行い、奈良ゆかりの伝統芸能である能などの行催事の支援をしています。また、常任の研究員のほかに外部から上席研究員、客員研究員を招き、プロジェクトごとに連携した活動を展開しています。

奈良ウェルネス俱楽部はカルチャー部門を担当、施設の統括責任者である施設長ほか各課員が企画立案から日常の講座運営、カウンターでの対応まで、外部の委託職員とともに業務に当たっています。



公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ組織体系図(2019年3月31日現在)

当公益社団法人への寄附のお願い

当公益社団法人では、個人・法人からの寄附を募っています。
公益社団法人ならではの税の控除が受けられます。

当公益社団法人は、奈良県知事より2013年3月、公益性を有する組織として公益社団法人認定されています。そのため、当公益社団法人への寄附については税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられます。

■詳しくは税務署にお尋ねになるか、
国税庁のホームページ (<https://www.nta.go.jp/>) をご確認ください。

寄付については通常寄附と特別寄附があります。
特別寄附では使途や管理運営法を指定できます。

(1) 通常寄附金
当公益社団法人の会員を含む広く社会一般に常時募金活動を行うことにより受領する寄附金です。
寄附金額の50%以上を公益目的事業に使用します。

(2) 特別寄附金
上記寄附金のほか、個人または団体から受領する寄附金です。
寄附者が寄附金の使途及び管理運営方法に条件を付けることができます。

(注) 金銭のほか金銭以外の財産権(有価証券等)を含みます。
なお、これらの寄附については当公益社団法人のHP (<https://www.s-s-l.jp/>) をご参照ください。

寄附のお振込先口座

南都銀行 本店営業部 普通預金 No.0355495

振込先名義：公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ 理事長 尼崎勝己

お問い合わせ・お申し込み先

当公益社団法人(担当：遠山) TEL : 0742-49-0861 E-Mail : info@s-s-l.jp

2018年度 活動報告書

公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ

Contents

支援事業	英語パフォーマンス甲子園	2-3
プロジェクト	伝統的空间に関する匠の技を未来につなぐ・世界に発信する	4-5
プロジェクト	安堵町 地域振興への支援	6-7
連携事業	大学その他の機関との連携	8
カルチャー事業	奈良ウェルネス俱楽部	9-13
about SSL	理事・新入社員紹介、入会案内、定款、概要	14-15

英語パフォーマンス甲子園

当公益社団法人は、年に一度日本文化発祥の地・奈良で開催される、高校生が主役の大会「英語パフォーマンス甲子園」を共催することで、次世代の青年の育成に取り組んでいます。



アイデンティティに基づき 「本当に伝えたいこと」を伝える



英語パフォーマンス甲子園は、高校生が自らの文化や伝統、環境や習慣を探求しながら「本当に伝えたいこと」を見つけ、国際言語である英語と言語を超えるパフォーマンスでそれを伝え合う大会です。

グローバル化が進展する社会においては、文化的背景を異にする多様な人々の交流が広範囲にわたって展開すると予想されるため、先を見通すことがより一層困難となります。こうした不確実性の時代には、「どう生きるのか」についての自らのアイデンティティを確立しながら、自分が本当に伝えたいことを伝え、相手の伝えたいことを的確に受け取ることで信頼関係を築いていくことが必要です。

英語パフォーマンス甲子園は、こうした時代の要請を踏まえて開催されています。この大会を主催する団体として、2015年、「英語パフォーマンス甲子園実行委員会」が設立されました。内閣官房参与(当時)・元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使の木曾功氏を顧問、帝塚山大学学長(当時)の岩井洋氏を委員長とし、実行委員会は教育関係者や観光関係者などで構成され、行政(奈良県、奈良市)もオブザーバーとして参画しています。当公益社団法人も、理事長が委員として参画するとともに、事務局も当公益社団法人内に設置することで、大会及び実行委員会を支援しています。



奈良を中心に関西の高校が出場 第1回大会を開催



昨年のプレ大会に引き続き、昨年2018年8月24日(金)、奈良県大和郡山市の DMG MORI やまと郡山城ホール(大ホール)にて、「第1回英語パフォーマンス甲子園」大会が開催されました。

大会理念は「ESD—つなぐー」でした。持続可能な未来や社会につながる人材を育むというESD(Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育)の趣旨に鑑み、この大会をESD実践の場とするべく、この理念が採択されました。

大会では、300名を超える来場者と来賓の方々のもと、奈良県、大阪府、兵庫県から9校が出場し、多種多様な演目とパフォーマンス(音楽、劇、書道、スピーチ、等)で舞台を盛り上げました。

一方、審査委員長の村上憲郎氏(元Google米国本社副社長兼Google Japan 代表取締役)、及び、吉川宗男氏(ハワイ大学名誉教授)、柴尾智子氏(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターシニアアドバイザー)、ガーレイノルズ氏(京都外国语大学教授)、西島和彦氏(Youth Theatre Japan株式会社代表取締役)の各審査委員により、独創性、コンセプト、表現力、英語力、チームワークの5つの審査基準による審査が行われました。

審査の結果、奈良県立桜井高等学校がグランプリ校(奨学金10万円)に、奈良県立ろう学校と大阪府立豊中高等学校の2校が準グランプリ校(奨学金5万円)に輝きました。また、関西創価高等学校と奈良県立法隆寺国際高等学校が特別賞(しまろくん賞)を受賞しました。



Next term

第2回大会開催 「ESD—つなぐー」を理念に、 英語 × パフォーマンスで生き様を世界に発信

第2回大会は、2019年9月8日(日)、奈良県大和郡山市 DMG MORI やまと郡山城ホール(大ホール)にて開催します。大会理念は「ESD—つなぐー」、ここには、過去から未来に『つなぐ』、社会に『つなぐ』という大会の目指すべき姿が示されています。後援は、外務省、奈良県教育委員会、大和郡山市、大和郡山市教育委員会、兵庫県教育委員会、京都府教育委員会、滋賀県教育委員会、三重県教育委員会、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、ESD活動支援センター、及び近畿地方ESD活動支援センターが確定しています。また、大会に先立ち、6月15日(土)、出場校の先生や生徒を対象に、魅力ある舞台づくりに関するワークショップの開催が予定されています。



伝統的空间に関する匠の技を 未来につなぐ・世界に発信する

当公益社団法人では、日本の伝統的空间を未来につなぎ、世界に発信する活動を推進・サポートしています。



伝統的空间がもたらす波及効果



日本の原風景を形作る伝統的な建物や庭などの空間。それを支えてきたのが伝統的構法と匠の技です。木や土のように生きている自然の素材を加工して利用する伝統的な日本建築並びに作庭、石垣建造等の巧妙な技術は、我が国独自のもので、外国には例がありません。そして、これらの技術が継承されてきた背景には、自然と共に生き、自らもまた大いなる自然の一部だと感得しつつ、常に素材の特徴に目を向けて技術を磨いてきた日本人の努力と英知の蓄積があります。

しかし、これらの技術は、高度経済成長以降の産業構造の変化や日本人の価値観・生活スタイルの変化等により厳しさを増しています。建築基準法の壁や後継者不足等の問題を抱え、存亡の危機に瀕しているとも言われ、とりわけ豊かな森林資源を有し法隆寺等の伝統木造建築が数多く存在する奈良県では、林業や伝統産業の衰退は地元経済への大きな打撃となっています。

このような状況の中、文化庁では檜皮葺、左官技術等の17の保存技術で構成される「伝統建築工芸の技：木造建築物を受け継ぐための伝統技術」を2020年秋にユネスコ無形文化遺産登録を目指して申請されることが決定しました。しかしながら、日本の伝統的空间は今回の選定技術だけではなく、幅広い分野の技術によって受け継がれてきました。今後、更に多くの伝統技術が選定されることで関連業界に大きな経済効果と波及効果が生まれ、地域及び日本経済の創生・活性化が期待できます。

シンポジウム・フォーラムの開催をサポート



伝統的建築工法並びに伝統的な建築に関する匠の技術のユネスコ無形文化遺産への活動を主導してきたのは、故中村昌生氏(京都工芸繊維大学元名誉教授)を会長として発足した「一般社団法人 伝統を未来につなげる会」です。本会は、中村会長が提唱した『庭屋一如』に基づき、伝統工法による木造建築を継承するとともに、建築を取り囲む自然との共生を促すことで、大自然との関係を修復することを目的として活動を進めています。当公益社団法人も同会の設立趣旨に賛同し、様々な活動をサポートしてきました。

その一環として、4月28日、明治大学アカデミーホールにおいて、講演&パネルディスカッション「普請文化フォーラム2018～未来へ継承すべき伝統建築・庭園・石垣技術」が開催され、当公益社団法人も共催団体として参画しました。本フォーラムでは、それらの現状を改善するために「全ての職人に光を！」という目標を掲げ、開催しました。

第1部として、内田祥哉氏(東京大学名誉教授・建築家)に基調講演「日本建築の伝統的な価値を巡って」を、千田嘉博氏(奈良大学教授・城郭考古学者)に特別講演「加藤清正の名城熊本城の大普請」というタイトルで講演を行っていただきました。



また、2部のパネルディスカッションでは、コーディネーターとして後藤治氏(工学院大学理事長)、パネリストとして進士五十八氏(福井県立大学学長・造園学者)、島崎英雄氏(専門学校職藝学院オーバーマイスター)、小林正美氏(明治大学副学長・建築家・都市デザイナー)、飯田泰之氏(明治大学政治経済学部准教授)にご登壇いただきました。「伝統建築技術の継承・活用で切り拓く日本の未来」をテーマに建築をはじめとする、各分野専門の方々から新たな切り口のディスカッションとなりました。

職人の方々がメッセージを発する「職人宣言」のコーナーでは、各職人の方々が想いを熱く語られました。また、11月23日には、明治大学アカデミックフェス2018において「～Discovering Japanese culture～日本の伝統建築の魅力とその理由」の開催を後援しました。

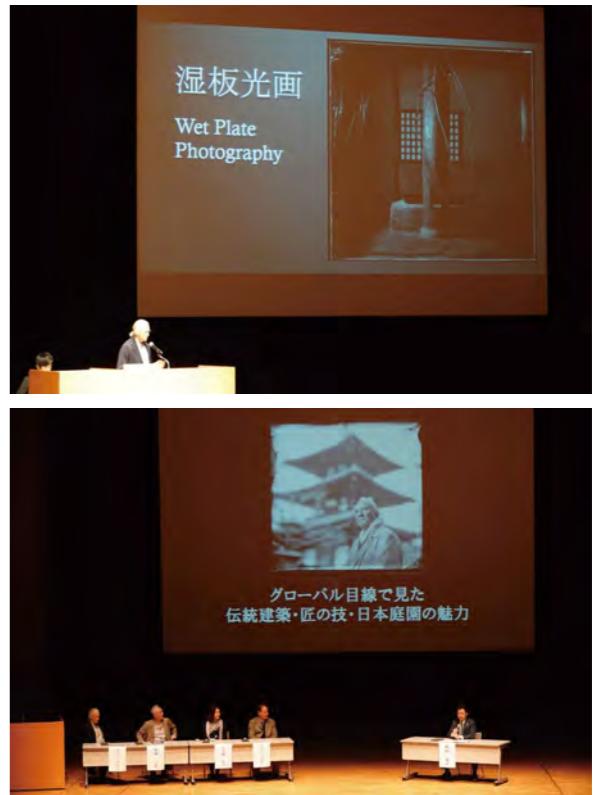
近代までの日本人は人間も自然の一部として認識しており、暮らしや住まい方も、自然と一体化することを目指していました。本シンポジウムでは失いつつある日本の住まい方を捉えなおすためにグローバル目線で見た日本が持つ魅力と持続可能な社会について深めていました。

初めに基調講演としてEverett Kennedy Brown氏(湿板光画家・日本文化研究家)に「日本の面影：匠の美意識と建築」というタイトルでお話しいただきました。

続いてパネルディスカッションでは、飯田泰之氏(明治大学政治経済学部准教授)をコーディネーターとして、Everett Kennedy Brown氏、小川三夫棟梁(宮大工)、Azby Brown氏(建築家・アーティスト)、烏賀陽百合氏(庭園デザイナー)にパネリストとしてご登壇いただきました。「グローバル目線で見た伝統建築・匠の技・日本庭園の魅力」をテーマに、日本からの目線、海外からの目線を交えたディスカッションとなりました。

今回のシンポジウムは普請文化の継承・活動がもたらす「価値」を日本はもちろんのこと、海外へも発信する大きな一步になったと考えています。

当公益社団法人では、次年度以降も伝統的空间の魅力発信と、ユネスコ無形文化遺産登録申請範囲拡大への取組を行ってまいります。併せて登録後を見据え関連する法整備の提案を行う予定です。



グローバル目線で見た
伝統建築・匠の技・日本庭園の魅力

安堵町 地域振興への支援

当公益社団法人は、安堵町の歴史的財産の再発掘のための調査研究と関連する行催事の支援を行ってきました。さらにその成果を生かし、観光や地域経済の活性化に結び付ける近隣の自治体との連携を模索しています。

安堵の偉人

安堵町(2019年2月1日現在:面積4.31平方キロメートル、人口7,436人)は、過去から多くの文化人・偉人を輩出してきた町です。古くは聖徳太子にさかのぼり、太子が斑鳩と飛鳥を馬で通った太子道、休憩のため腰かけたと伝えられている御幸石が現存しています。晩年の住まいであった飽波葦牆宮(あくなみあしがきのみや)が安堵にあったという伝承もあります。また、戦国時代には、筒井氏一族である土豪「中氏」が活躍しました。

さらに、幕末以降、天誅組に加わった国学者伴林光平と親交があった今村文吾、文吾の甥で奈良県再配置運動を推進した今村勤三、勤三の四男でBCG接種を確立した大阪大学第5代総長を務めた今村荒男、と続きます。

そして、今村荒男と親交が深かった近代陶芸の巨匠富本憲吉はこの安堵町の地で後世に残る名作の数々を生み出していました。



今村 勤三



今村 荒男



富本 憲吉

安堵町 明治150年記念事業のサポート



平成30年(2018年)は、明治元年(1868年)から満150年の年に当たります。これを記念し、明治以降の歩みを次世代に遺すことや、明治の精神に学び、日本の強みを再認識する機会とすべく、政府、地方公共団体と民間団体は連携して「明治150年」に向けた関連施策を推進しました。

その一環として、当公益社団法人も安堵町からの委託を受け、取り組みを行つてまいりました。

安堵町内への取り組み



2018年11月2~4日、トーク安堵カルチャーセンターにて「第32回安堵町文化祭」が開催されました。最終日の4日には、「安堵町文化講演会&小説『大和維新』トークセッション」が行われ、当公益社団法人がこれを後援しました。この講演会はシティープライドの確立を目的に地域住民が安堵町について深く学び、新たな発見ができるものとして開催されました。

第一部では、西山厚氏(帝塚山大学文学部教授)による「法隆寺と聖徳太子」というタイトルで講演を行いました。また第二部のトークセッション「『小説 大和維新』~大和の小さな村から歴史が動いた~」では、コーディネーターを当公益社団法人の川井徳子専務理事が務め、パネリストとして植松三十里氏、吉田栄治郎氏(公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会研究員)が登壇されました。



安堵町外への取り組み



安堵町を広く世の中の人々に知って頂くために、シティープロモーションとして書籍の出版を安堵町へ提案しました。

その結果、安堵町出身の偉人の一人である今村勤三を主人公とした小説『大和維新』を、『リタとマッサン』の著者で有名な歴史小説家の植松三十里氏に執筆していただきました。

また、11月11日には、明治大学リバティーホールにおいて、安堵町・明治150年記念シンポジウム「大和維新」の開催を後援しました。このシンポジウムはシティープロモーションを目的に、安堵町の強みを再認識すべく、開催されました。



第一部に先立ち、明治大学政治経済学部飯田ゼミの皆様による安堵町プロモーション動画が上映されました。

第一部の基調講演では、土屋恵一郎氏(明治大学学長で能楽プロデューサー)による基調講演「能と安堵町」が行われました。

続く第二部では、植松三十里氏(歴史小説家)、岡本彰夫氏(元春日大社権宮司、奈良県立大学客員教授)、吉田栄治郎氏(公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会研究員)をパネリストとするパネルディスカッション「古代、中世、そして明治へ。大和の改革の普請」が行われ、コーディネーターを当公益社団法人の川井徳子専務理事が務めました。



今後も安堵町の魅力を深めると共に、少しでも多くの方に興味を持っていただけるよう、今までの経験とノウハウを活かした取り組みを行っていきたいと思います。

Theme4 連携事業

大学その他の機関との連携

当公益社団法人は、県内の大学をはじめ関係機関と連携し、地域文化や経済の活性化に寄与する活動を提案・サポートしています。

日本ESD学会をサポート

ESD (Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育) は、人類が発展的に継続的に持続可能な社会を実現するための価値観や行動を生み出す変容の教育のことです。そして、持続可能な社会の構築に資することを目的とし、学校、企業、行政、市民、学生等が立場・分野を超えて協働する場である日本ESD学会が2017年4月に設立され、事務局が国立大学法人奈良教育大学次世代教員養成センター中澤静男研究室内に設置されました。

2018年8月18日(土)・19日(日)、奈良教育大学において「日本ESD学会第1回大会」が開催されました。開催に向けた実行委員会のメンバーとして当公益社団法人の川井徳子専務理事が参画しました。大会当日には、川井徳子専務理事が「日本庭園の美的価値について—ESD的観点で再評価する名勝奈良公園の景観」、田中俊行客員研究員が「ESDと日本伝統文化の可能性—いけばなの見地からの考察」をテーマに研究発表を行いました。

当公益社団法人は、今後も研究会・シンポジウム等の開催を企画・サポートするとともに、関係する機関への積極的な働きかけを行ってまいります。



International Japanese Garden Conferenceに登壇

North American Japanese Garden Association (NAJGA) とは、2011年にNPO組織として創立し、アメリカ合衆国とカナダを中心に日本庭園に関する活動を行なっている協会です。教育や支援運動を通じて日本庭園を愛する人や手入れをする庭園技術者を助けることを目的としています。9月29日～10月1日にかけて米国オレゴン州ポートランド市で、International Japanese Garden ConferenceがNAJGAの主催、ポートランド日本庭園をホストとした形で



開催されました。会期中、当公益社団法人専務理事の川井徳子がZen' ami & Zeami: Higashiyama Culture & Japanese Gardensという発表を行いました。世界各国の数多くの方々に日本独自の美学感をお伝えすることができました。前年に公益社団法人日本造園学会発行の学会誌「造園技術報告集9(2017)」に川井徳子が投稿した学術論文をNAJGAが評価したことがきっかけで、本カンファレンスでの発表に繋がりました。今後とも各学会や協会への積極的な働きかけを行なっていきます。

Theme5 カルチャー事業

奈良ウェルネス俱楽部

奈良ウェルネス俱楽部は、民間としては関西トップクラスの規模と実績を有するカルチャー施設です。2007年4月から、元社会保険庁なら社会保険センター事業を継承し、厚生労働大臣認定「健康増進施設」として「こころ」と「からだ」の健康づくりをテーマに、地域コミュニティの活性化に貢献しています。

カルチャー施設としては、約140名の講師陣と約270の講座を常時開設しています。また、施設内だけに留まらず、施設外の講座(現地講座)や出張講座、講師派遣なども手掛けており、2018年度においては社会貢献としてボランティア活動にも力を入れ、福祉施設への「お笑いボランティア」、ならマラソンなどの「スポーツボランティア」に参加しました。



年間講座開講状況

■受講者件数 <2018年度>

期間	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期
2018年度	2,510	2,462	2,415	2,392

■講座&講師数

	講座数	講師数
2018年度	268	147

講座分類	教室	受講者
からだの健康づくり講座	77	735
こころの健康づくり講座	191	1,657
合計	268	2,392

からだの健康づくり講座			
	講座名	教室数	新規講座
1	ソフトエアロ	1	20
2	気功太極拳	8	99
3	健身体操	3	34
4	自彌術(じきょうじゅつ)	1	13
5	ジャズ体操	1	12
6	リラックス体操	1	6
7	ジャズ健美操	1	14
8	熟年ジャズ体操	3	41
9	身体スッキリ骨盤体操	1	6
10	さわやかリズム体操	1	12
11	健康貯筋教室	1	11
12	ストレッチ&ウォーキング	2	8
13	ヨガ	4	35
14	ダイエットヨガ&ヒーリング	1	11
15	ママ&ベビーヨガ	1	3
16	ピラティス	3	37
17	健康維持増進室	1	5
18	生活習慣病予防改善	1	15
19	チベット体操	1	○ 4

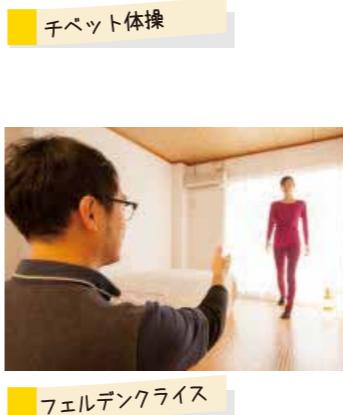
からだの健康づくり講座			
	講座名	教室数	新規講座
20	やさしいトレーニング	1	9
21	男のストレッチ&筋トレ	1	13
22	卓球	5	52
23	スポーツ吹矢	1	5
24	フープエクササイズ	1	2
25	フランコ	2	11
26	ペリーダンス	2	○ 5
27	社交ダンス	2	22
28	ハワイアン・フラ	6	46
29	バレエ	6	61
30	フェルデンクライス	1	○ 6
31	腰掛タップダンス®	1	12
32	タップダンス	1	2
33	ZUMBA(ズンバ)	1	11
34	山歩き	4	70
35	ゴルフ	3	10
36	ノルディックウォーキング	1	6
37	ルーシーダットン	1	3
38	自力整体	1	○ 3
	計	77	4 735

こころの健康づくり講座				
	講座名	教室数	新規講座	受講者数
1	囲碁	5		39
2	英会話	11		64
3	韓国語	6		43
4	中国語	4		25
5	フランス語	1		5
6	俳句	1		10
7	短歌	1		19
8	川柳	1		10
9	コミュニケーション力アップ	1		12
10	おもしろ仏像講話	1	○	4
11	健康マージャン教室	4		93
12	大人のリコーダー	2		10
13	楽しい朗読	1	○	10
14	ソープカービング	1		5
15	写真	3		39
16	おもしろ数学考房	1		3
17	つまみ細工	1	○	2
18	はじめての古文書	1		7
19	カラオケ	10		147
20	懐かしの名曲を愉しむ!	1		10
21	発声専門講座	1		7
22	コーラス	3		46
23	たのしいシャンソン	2		17
24	季節の歌	4		109
25	ジャズボーカルサロン	1		9
26	民謡（ひろみつ会）	1		12
27	詩吟（桂心流）	1		7
28	ボイストレーニング	2		2
29	中高年の「らくらくピアノ®」	2		13
30	大人のピアノ	10		10
31	ギター講座	1		10
32	ウクレレ講座	2		16
33	大正琴	2		10
34	中国楽器 二胡	2		7
35	オカリナ	6		55
36	沖縄三線	1		6
37	ハーモニカ	4		26
38	茶道（裏千家）	3		26
39	着つけ	1		4
40	立体ポップアップカード	1	○	1
41	絵画	2		11
42	裸婦デッサン	1		5
43	水彩画	4		37
44	水彩・詩画	1		11
45	アートで余暇を楽しく	1		11
	計	191	7	1,657

こころの健康づくり講座				
	講座名	教室数	新規講座	受講者数
46	一筆画（一光流）	1		10
47	日本画	1		9
48	水墨画	4		27
49	風景スケッチ	3		40
50	バステル画	1		3
51	バステルアート	1	○	3
52	色えんぴつ画	1		19
53	切り絵	1		6
54	ファミリー書道	1		36
55	筆遊び 楽しみの書	1		9
56	書道	5		37
57	ペン習字	2		21
58	筆ペン	2		13
59	木彫	1		7
60	木版画	1		6
61	和紙ちぎり絵	1		7
62	押し花教室	1		7
63	お笑い福祉士養成講座	1		11
64	戸塚刺しゅう	1		4
65	アートフラワー	1		3
66	パンの花	1		8
67	箱と雑貨のカルトナージュ	1		3
68	グルーデコ	2		13
69	フラワーアレンジメント	1		9
70	ドライ&プリザーブドフラワー	1		9
71	ガーデニング	1		12
72	ミニ盆栽	1		7
73	キッチンガーデン	1		8
74	手編み	4		29
75	手描友禅染	1		7
76	パッチワーク	4		40
77	洋裁リフォーム	2		32
78	和裁	3		26
79	謡曲仕舞（金春流）	1		15
80	かっぽれ・創作舞踊	1		7
81	奈良一刀彫	1		13
82	仏像彫刻	2		22
83	陶芸	4		16
84	バードカービング	1		10
85	中国茶講座	5		38
86	摘み菜ウォーキング	1		7
87	バードウォッキング	1		6
88	タロットカード	1	○	5
89	カリグラフィー	1	○	4
90	パン教室	2		8
	計	191	7	1,657

2018年度新設開講講座

奈良ウェルネス倶楽部では、春と秋に新設講座の体験会を開催しています。
時代の流行や伝統文化など、さまざまな角度から新講座を提案、開講しています。



Theme5 カルチャー事業

施設外 現地講座

奈良ウェルネス倶楽部の教室は、体育室も含めて10部屋あります。しかしながら、教室内だけで実施する講座には限界があります。そこで、アウトドアな講座や専用設備のいる講座は「現地講座」として開講しています。現地講座については、昨今の習い事ニーズや健康寿命も考慮した上で増設したいと考えています。



出張・派遣講座

「いつまでも元気で過ごしたい」、これは誰もが願う事ですが高齢者の場合は特に切実です。超高齢化のこの時代、ここからだの健康は大きなテーマです。奈良ウェルネス倶楽部では、施設内講座以外にも現地講座を展開し「ここからだの健康増進施設」として地域に貢献してまいります。しかしながら、奈良ウェルネス倶楽部や現地講座に通えない方、特に高齢者施設にご入居されている方々から「習い事をしたい」との要望も多く、それにお応えするために出張講座にも積極的に取り組んでいます。講師数・講座数ともに関西トップクラスの運営実績があるからこそ実現可能な出張講座です。



働き方改革などの政策により、企業や所属団体でライフワークバランスや健康意識の高まり、健康寿命の延伸など、さまざまな取組みがなされています。そんな各々の意識の高まりに対して、奈良ウェルネス倶楽部では、福利厚生やイベント等についてもニーズにお応えした企画を提供しています。



講座の外部発表会



- カラオケ教室発表会 2018
- 講師: 北沢 麻衣
- 場所: やまと郡山城ホール

カラオケ講座、北沢麻衣クラスの第14回合同発表会が開催され、受講生が日頃の成果を熱唱されました。



- たのしいシャンソンコンサート 2018
- 講師: ゆうき 芽衣
- 場所: 奈良市西部会館学園前ホール

今年も「たのしいシャンソン講座」の発表会が行われました。受講生たちが楽しく歌いあげる姿がとても印象的でした。



- You&I ロビーコンサート
- 講師: 飯田 美穂子/田中 紀子
- 場所: 天理市役所ロビー

約20年来ずっと続いているロビーコンサート。天理市役所のロビーに、コーラス受講者のいきいきとした伸びやかな歌声が響き渡りました。

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| ■奈良一刀彫 | 講師: 平井 和希 | 奈良県文化会館 |
| ■青垣会作品展 水彩画 | 講師: 植木 善三郎 | 奈良県文化会館 |
| ■和紙絵奈良 創作展 | 講師: 小西 恵子 | 奈良県文化会館 |
| ■写真展 | 講師: 西丸 昌義 | 入江泰吉記念奈良市美術館 |
| ■日本民謡ひろみつ会 | 講師: 藤本 ひでまさ | 奈良市音声館ホール |

講座の館内作品展



- 日本画展示会
- 講師: 飯田 千穂子

日本画で使われる岩絵具ならではの奥深い色や、繊細な描写、大胆な表現など受講者が手掛けた作品を展示しました。



- 陶芸
- 講師: 林 尚生

焼き上がるまでどういった作品になるのかが分からぬ陶芸。想像していた通り、想像以上など陶芸作品には奥深さを感じられます。



社会貢献事業

落語家の笑福亭學光さんが個人で認定している資格「お笑い福祉士」。奈良県では唯一、奈良ウェルネス倶楽部が2017年10月から養成講座としてスタートし、ボランティア活動も6回を数えます。2018年度には、「お笑い福祉士認定試験」も行い、受講者も級持ちになりました。福祉施設からボランティアの要望が多く、益々のご活躍が期待されます。



Theme 6 about SSL

2018 年度理事紹介



理事長
尼崎 勝巳
あまさき かつみ

1958年関西学院大学商学部卒。奈良県卓球界の第一人者で上級公認指導員資格を取得。奈良教育大附属中、奈良高、南都銀行チームの卓球部主将としてそれぞれの県大会で優勝。国体、全国大会へは選手として30回余、国際交流大会へも役員・選手として20回余出場。平成元年から25年間県卓球協会理事長を経て現在会長代行に就任。日本卓球協会本部理事、常任理事を6年、評議員を35年間務め、卓球の普及とレベルアップに尽力。永年の功績により奈良市、奈良県、日本卓球協会から数多くの表彰を受け、社会人としては南都銀行各地の支店長、南都地所(株)代表取締役、奈良市自治連合会副会長、奈良西警察協議会会长などを歴任。2013年10月には文部科学大臣から「生涯スポーツ功労者」表彰受章。奈良ウェルネス俱楽部運営委員長。



専務理事
川井 徳子
かわい のりこ

1981年立命館大学(文学部西洋史学専攻)卒業。奈良地方裁判所委員会委員、国立博物館評議員。創業の地である奈良県を中心に、西日本でホテル経営などの観光・宿泊事業、物流事業、不動産事業を幅広く展開しているノブレスグループの代表。近代日本庭園「植治の庭」の再生に貢献。著書に「不動産は「物語力」で再生する」(東洋経済新報社)などがある。造園技術学会発行の学術誌に独自の分析を踏まえた「庭園・邸宅ビジネスの可能性」についての論文を寄稿。2018年10月、ポートランド(アメリカ合衆国オレゴン州)の「北米日本庭園協会カンファレンス」にて「神話世界と日本人の美意識」を発表。主な所属学会は、日本経済学会、日本造園学会、日本ESD学会。



理事
日置 弘一郎
ひおき こういちろう

就実大学経営学部教授。京都大学名誉教授。鹿児島大学客員教授。日本語ジェンダー学会理事。1972年京都大学経済学部卒。大阪大学大学院経済学研究科後期課程中退。茨城大学助手などを経て1983年九州大学助教授。1992年京都大学助教授・教授。2015年より公立鳥取環境大学経営学部教授。2018年4月より現職。専門は組織論・経営人類学。著書に『市場(いちば)の逆襲』(大修館)、『経営学原理』(エコノミスト社2000)『出世のメカニズム』(講談社)などがある。所属学会は、しごと能力研究学会、経営哲学学会。



理事
飯田 泰之
いいだ やすゆき

明治大学政治経済学部准教授。専門は経済政策マクロ経済学。内閣府規制改革推進会議委員・同農林ワーキンググループ座長を兼務。東京大学経済学研究科博士課程満期退学。駒澤大学経済学部准教授などを経て、2013年より現職。内閣府経済社会総合研究所客員研究员、財務省財務総合政策研究所客員研究员、同上席客員研究员、総務省自治体戦略2040構想研究会委員などを歴任。著書に『経済学思考の技術—論理・経済理論・データを使って考える』、『歴史が教えるマネーの理論』(ダイヤモンド社)、『昭和恐慌の研究』(共著、東洋経済新報社)、第47回日経経済図書文化賞)、『マクロ経済学の核心』(光文社新書)、「これから地域再生」(編著、晶文社)など。所属学会は日本経済学会、日本経済政策学会、日本金融学会。

<活動・研究内容>

平成元年奈良県卓球協会理事長に就任以来、地域住民の健康増進、生き甲斐が手軽に卓球を楽しむことで実現できるよう努めてきた。平成5年からは近畿ブロック代表の日本卓球協会理事に選出され、財務基盤を2年間で立て直し、卓球の普及・発展と選手強化対策としては、小学校・中学生の若い年代からの一貫指導体制確立と有望選手の海外遠征試合経験を可能にした。その後約10年を費やして最近何とか中国の厚い壁を突破できそうなレベルに到達。昭和30年から50年迄の卓球王国日本の姿にやっと近付いてきたと言える。昭和30年代には中国からの要請に応じて、日本のトップレベルの選手2~3名を卓球の指導者として毎年派遣、国を挙げての取組みで昭和55年以降強い中国卓球が定着。民間外交として日中卓球交流はその後今に至るまで全国各地で多くの実績を挙げてきた。来年の東京オリンピックで卓球は金メダルを獲得できる種目として期待されているだけに、大きな目標達成のために微力を尽くさねばと心地ている。

<活動・研究内容>

200年ぶりの譲位が行われ、新元号は「令和」となりました。これまでの習わしとは異なり、この度は和書の万葉集・梅を愛でる32歌の序文から選ばれたとのこと。序文の作者・大伴旅人は「和が園に 梅の花散る ひさかたの 天より雪の 流れるかも」と梅花と共に天空を舞う雪を詠んでいます。この時代の歌会はまだ連歌の形式をとっておらず、梅をテーマにそれぞれが独立した歌を詠んでおりました。大西克礼は西洋の哲学と美学の第一人者でしたが、日本の美学について、歌を中心にして研究しました。中でも藤原俊成と定家親子による美的追求が「幽玄」として結晶すること、また、それらが能楽の中で世阿弥と禪竹によってよりダイナミックに展開することを示しました。「幽玄」という美学が共感・共有されるのに「連歌」というともに歌を歌うことが極めて大切な場であったろうと考えています。

新しい元号と共に、日本の美学について再びグローバルに注目されることとなるのではないかと感じており、今後も空間造形をはじめとする考案を進めてまいります。

<活動・研究内容>

専門は組織論・経営人類学。研究テーマは社会の中での企業の役割を考えることが中心である。ものづくりについてのビジネスモデルが多様であることから、事業創成という学問を考えた。また、企業と他の社会的主体(家庭や地域社会、他の事業主体など)との共生を考える共生経営という領域を提唱している。また、国立民族学博物館の共同研究として経営人類学という理論領域を作り出し、二十年以上継続して研究している。また、九州大学在籍時に福岡県の水産物付加価値向上委員会の委員長を務め、水産物への関心は高い。さらに旅館の女将さんの研究にかかるなど個別のテーマについても関心を持つ。最近は産業集積に関心を持ち、単一の企業を最適化するというこれまでの経営学ではなく複数企業の相互最適化という枠組みで経営学を再構成するというしごとを志している。

<活動・研究内容>

これまでマクロ経済政策における金融政策・貨幣政策に関する研究を理論的考察にとどまらず、統計と歴史の両面から探求することに重点を置いて研究を進めてきた。その一方で、これらのマクロ経済政策の効果は地域によって大きく異なることにも注目している。マクロの日本経済の変化に対して、より大きな恩恵を受ける地域、波及効果を十分に受け止められない地域が生じる理由はどこにあるのか。このような知見からミクロ経済学・マクロ経済学の中間にメゾ経済学の構築の必要性、さらにはその中の地域経済研究の必要性を重視して研究を進めている。目下の研究テーマは、産業・職業・所得分布における多様性と地域経済の成長の関係に土手の統計的検証である。これらの活動に合わせて、現在複数の市役所・商工会議所と連携をとりながらより具体的な地域経済活性化への提言を検討している。



理事
馬場 正哲
ばば まさあき

株式会社地域計画建築研究所主席研究監。1973年関西大学工学部建築学科卒業、同年株式会社地域計画建築研究所(アルパック)入社。取締役計画部長・総務部長・副社長を経て現職。地域計画から都市計画とともにニュータウン計画、市街地再開発事業施設・開発プロジェクト事業、地域・産業・観光・文化振興計画、市街地・環境・景観整備計画、建築計画を担当。技術士・一级建築士・一级造園施工管理技士、認定都市プランナー、再開発プランナー、マンション建替えアドバイザー。(一社)再開発コーディネーター協会、(公社)日本建築家協会、(一財)日本グランドワーク協会に所属。著書:都市再生・街づくり学~大阪発・民主導の実践~(株)創元社(大阪市街地再開発促進協議会編・共著)などがある。所属学会は、日本都市計画学会、日本建築学会、日本観光研究学会。



理事
川井 澄子
かわい すみこ

東京理科大学大学院(建築学専攻)卒業。東京理科大学・小布施町のまちづくり研究所にて町の景観条例や街並みについての研究活動を行う。同研究所は、「修景」を掲げた小布施町と連携し、行政・地域住民・大学が一体となった個性のある地域づくりを研究してきた。当公益社団法人では旧富本憲吉記念館のリメイク、2016年3月の「うぶすなの郷TOMIMOTO」としてのオープンに際しては、オープン前から施設コンセプトの立案のみならず、施設の細部にわたる設え、おもてなしの心得に至るまで総合プロデュースし、地域と連携した観光まちづくりを行った。



理事
岩井 洋
いわい ひろし

帝塚山大学文学部教授。1991年上智大学大学院博士後期課程単位取得退学。帝塚山大学経済学部教授、同副学長を経て、2012年より同学長、2017年より現職。日本宗教学会理事、地域デザイン学会特命担当理事、奈良地域デザイン研究所理事、奈良シニア大学学長。専門は、宗教社会学、経営人類学。著書に『キャリアデザイン』(共著、弘文堂)、『アジア企業の経営理念』(共著、文眞堂)、『Enterprise as an Instrument of Civilization』(共著、Springer)、『Globalizing Asian Religions』(共著、AUP)などがある。所属学会は、日本宗教学会、初年次教育学会、地域デザイン学会、国際宗教社会学会、韓国日本近代学会など。

◆ 新入社員紹介

馬籠 紗綾香
まごめ さやか

2019年2月より奈良ウェルネス俱楽部に勤務。大学院修了後、京都の大学や研究所等に勤め、研究会等の運営や対外向けの情報配信業務に携わった。奈良ウェルネス俱楽部では、宣伝販促として、チラシの作成やホームページデザインの更新・広報として、奈良ウェルネス俱楽部の認知度向上を目標に、SNS・ホームページを活用した講座情報や受講者・講師による展示会や発表会・大会等の発信および、講師向け通信等の業務に取り組んでいる。「今まで多くの方々と運営業務に携わるなかで培ったコミュニケーション方法や情報発信等の経験を活かし、講師との交流を深め、当俱楽部の講座の魅力を受講者のみなさまに地域の方々へも、より一層伝えられるよう広報視点で創意工夫し、日々精進してまいりたいと考えております。」

<活動・研究内容>

まちづくりの根本は、地域が健全に地域を統治(ガバナンス)する意識と仕組みができていることだと考えます。かつての日本には合議による地域運営が培われていたといわれます。しかし、明治維新的グローバル化と中央集権、敗戦による民主主義という混乱も含めて、地域の主体性が曖昧模糊となり、健全な国家の土台が揺らいで久しい。今日漸く、官から民へ、市民が地域を担う時代が求められるようになり、このことも混乱の課題です。大事なことは、ネットワーク型まちづくりの仕組みを息づかせることと考え、生命体のシステム(三つの系)をまちづくりに構築することを実践的に考えています。①神経系:地域自治の体制を構築/自治会等の再生/市民としての自覚/行政の改革(アクトリーチ)②免疫系:ネットワークの構築/多様な活動の連携・情報の共有・学習機会の共有 ③中枢系:地域理念の堅持/構想をもつ/「造形」の再生(万物生成、創造変化、自然、創造化する:列子「周穆王篇(しゅうぼくおうへん)」)を目指しています。

<活動・研究内容>

安堵町にある旧富本憲吉記念館の再生事業として、「うぶすなの郷TOMIMOTO」をプロデュースしてきました。昨年は明治150年事業として、安堵町の明治期に活躍した偉人・今村勤三にフォーカスした小説「大和維新」(植松三十里著)が出版されました。今村氏は、奈良県再設置を行った人物で初代の奈良県議長を務めた人物です。また、明治大学と連携し、学生がフィールドワークを実施、安堵町の観光MAPやプロモーションビデオを制作しました。明治大学で「大和維新」をテーマにシンポジウムを行い、安堵町の歴史や地勢、文化など様々な角度から安堵町・大和を深めるシンポジウムを行いました。文化、歴史、風土、人物(物語)を通して、地域活性化を目指していくまます。

<活動・研究内容>

地域社会への貢献活動としては、「五條市地域・産業ブランド推進協議会」の座長をつとめ、同市における地域商社の設立を支援している。また、地域社会貢献に関わる研究活動として、世界や日本における奈良の歴史文化的位置づけを明らかにする「奈良学」研究を推進するとともに、産官学が連携する研究プラットフォームとして「帝塚山経営人類学研究会」を主宰している。特に「奈良学」研究においては、未完成のまま計画が中止された「未成線」である、「五新線」(五條市内)の歴史学的研究と、その産業遺産としての利活用についての実践的研究をすすめてきた。さらに、ESD(持続可能な発展のための教育)を基本理念とする、高校生のための大会「英語パフォーマンス甲子園」の実行委員長をつとめ、日本の伝統文化を世界に発信できる若者の育成を支援している。

◆ 入会案内

行政への提言を含め、事業を力強く推進していくためには、会員の一層の事業参画と協力が不可欠です。そのため当公益社団法人では地域の活性化と文化の向上により寄与すべく常時会員を募集しています。会員費は以下の通りです。

- 個人正会員 一口 10,000円、一口以上
- 団体正会員 一口 10,000円、三口以上
- 賛助会員 30,000円以上

ぜひ入会をご検討くださいよう、よろしくお願い申し上げます。なお、手続き等の詳細は事務局にお問い合わせください。
(お問い合わせ)TEL:0742-49-0861